

麦作情報 No. 2

令和2年1月21日
西松浦農業改良普及センター

1. 気象概況

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
1月	1	5.8	5.8	10.4	12.0	1.4	0.6	10.0	0.0	18.0	37.1
	2	5.5	10.4	10.0	14.4	1.3	6.2	11.3	36.0	16.1	14.3
	3	5.4	6.5	9.7	9.9	1.2	3.2	13.4	1.0	14.5	9.0
	4	5.1	6.8	9.3	10.8	1.0	2.9	15.6	9.0	14.1	8.8
	5	4.8		9.1		0.6		14.8		15.4	
	6	4.7		9.1		0.4		13.6		21.3	
2月	1	5.0		9.7		0.6		9.8		20.2	

- 平均気温は、平年と比較すると12月4半旬および1月2半旬は4℃ほど高く推移した。また、その他の期間についても平年と比較し2～3℃程度高く推移した。
- 降水量については、12月は1日のまとまった降雨（82mm）や中下旬にかけての断続的な降雨により平年に比べかなり多くなった（平年比227%）。
- 福岡管区気象台の1ヶ月予報（1月16日発表）：平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い予報。向こう1か月の平均気温は、高い確率80%。降水量は平年並または多い確率ともに40%の予報。

2. 生育概況

- 令和2年産麦の播種盛期は、11月上中旬～11月下旬となった。
- 本年は、播種後の気温が平年より高く推移しており、適度な降雨があったため、出芽に要する期間は短く、出芽後の生育も平年より早くなっている。
- 高温や降雨の影響で、除草剤の薬害が散見されたが、生育抑制等の大きな影響は見られていない。
- 排水対策が徹底できておらず、12月中旬以降の断続的な降雨により長期帯水した圃場においては湿害による葉の黄化等が見られている。



除草剤（リベレーターフロアブル）による薬斑

《麦類の生育状況（1月21日時点）》

- ① 11月10日頃に播種された圃場では、現在本葉8葉目が展開中（7葉期）
- ② 11月15日頃に播種された圃場では、現在本葉7葉目が展開中（6葉期）
- ③ 11月20日頃に播種された圃場では、現在本葉6葉目が展開中（5葉期）
- ④ 11月下旬頃に播種された圃場では、現在本葉5葉目が展開中（4葉期）

3. 今後の管理

1) 肥培管理

- 播種時期により管理が異なるため、下記を参照にする。
※地力がある圃場（堆肥連用田など、令和元年産麦で倒伏した圃場等）では、麦の生育量および葉色から判断して施肥量を減じるなど調整を行う。

①11月10日頃播種

→まもなく茎立ち期を迎える。1月下旬を目途に穂肥を施用する。
また、本年は生育が早いため可能な限り土入れを実施し、凍霜害の予防に努める。併せて、溝をつなぐなど排水対策も徹底する。

②11月15日頃播種

→まもなく節間伸長期を迎える。2月の上中旬を目途に穂肥を施用する。本年は生育が早いため可能な限り麦踏みや土入れを行い凍霜害の予防に努める。

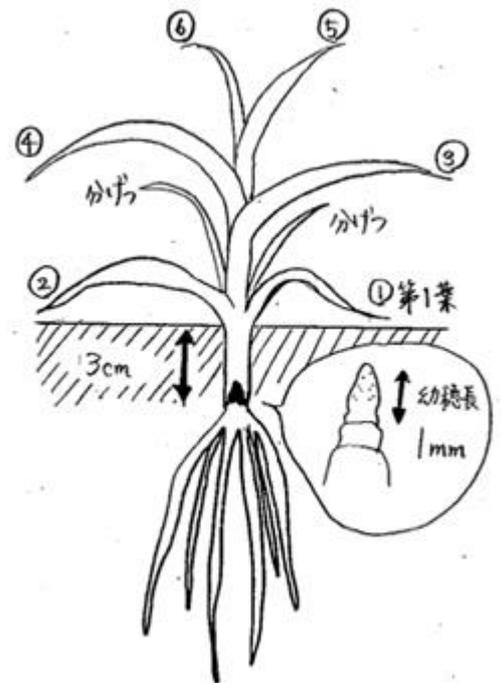
③11月20日頃播種

→まもなく幼穂形成期を迎える。追肥をしていない圃場は、すぐに追肥を行う。本年は生育が早いため可能な限り麦踏みや土入れを行い凍霜害の予防に努める。

④11月下旬播種

→4葉期となり追肥の時期を迎えている。追肥時期を逸さないように注意する。
※堆肥連用田や前年産麦で倒伏した圃場および大豆後の圃場については、麦の生育を見て施肥量を減らすなど調節する。

幼穂形成始期（麦 5.5L～6.0L 頃）



2) 排水対策

- 根腐れや湿害防止のために、溝（畦間）をまくら地までとおして、排水溝の整備を入念に行う。今後、降雨が続くため、圃場内に滞水がみられないように注意する。

- 麦類の発根力は、最高分げつ期～節間伸長期（概ね7～8葉期頃）が最も高いとされている。
根の活力維持のためにも、排水対策は重要な作業である。
排水溝の整備の実施により、麦の根の活力維持に繋げる！！



3) 麦踏み、土入れ

- 12月の断続的な降雨により、畝間に帯水している圃場もみられる。2月に入ると降水量が多くなる場合があるため、それまでに溝をつなぐなどの排水対策を徹底する。
- 必ず圃場が乾燥した状態（畝間が白乾している状態）で、麦踏み（3葉期以降から）や土入れ（5葉期以降から）を実施する。
- 土壤水分が高い状態で麦踏みを行うと、土がしまり湿害による根痛みを起し、マイナス要因となる。（土を手で握り、湿った状態であれば、無理な麦踏は避ける。）

麦踏みの効果：①耐寒性の増加②根の伸長促進③早立ち防止による凍霜害回避など

- 圃場条件によっては、発芽に時間を要さず、生育ステージが進み、早めに茎立ち期を迎えることもあるので、必ず麦の生育ステージの確認を行う。

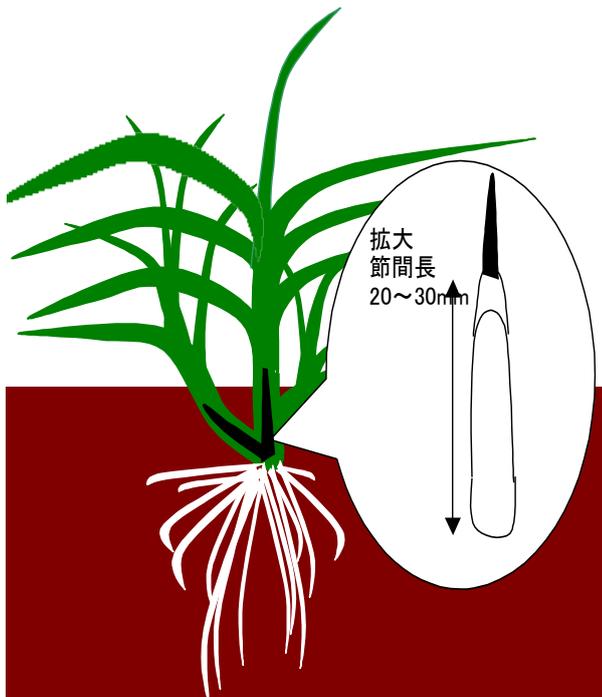
幼穂凍死を回避するためにも、土壌が乾燥条件になれば、麦踏み作業を 10日間～2週間の間隔で実施する。

○茎立ち期以降は、茎折れや穂の裂傷につながり、穂数減となるため、麦踏みは行わない。

※11月15日以前に播種された圃場は、出芽後気温が高く推移しており生育が非常に早く、倒伏する恐れがあるため、可能な限り麦踏みの回数を多くする。(麦踏みと麦踏みの間は、最低でも1週間は空ける)

土入れの効果：①防寒②倒伏防止③無効分げつの抑制④雑草防除⑤表面排水など

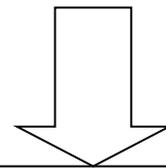
- 土入れ作業は、本葉5～6葉期から圃場の条件をみながら計画的に実施する。
- 分げつ発生始期に、土入れの量が多いと分げつ抑制につながるため、生育初期(生育量が少ない)は土入れの量を少なく、生育量が多い場合は土入れの量はやや多めにする。
- ※生育が遅れている圃場や砕土が十分でない圃場では、過度の土入れは控える。



茎立ち期

【節間伸長始期】

茎の節間が5mmとなったとき(葉齢は7葉期)。節間が伸長し、幼穂が地上部近くに上がってくる。



【茎立ち期】

節間伸長期から2週間程度経過した時で、節間が2cmに達し、幼穂が地上部に上がってきたとき。

この時期になると麦踏はできない。

幼穂凍死の危険が高くなる。

茎立ちが早いときなどは、幼穂保護のため土入れを実施する。

4) 雑草防除

- 11月上中旬に播種された圃場ではスズメノテッポウや、近年問題となっているカズノコグサやタデ類、トゲミノキツネノボタンなどの発生が散見される。
- 土入れによる雑草防除を実施するとともに、常に圃場の雑草発生状況を把握し、除草剤の処理時期を逸しないよう対策を徹底する。
- 除草剤効果を保つため、雨前を避けて散布する。(天気予報を確認してください)
- カラスノエンドウは収穫時に混入する危険性が高いため、毎年発生している圃場や、すでに発生がみられる圃場では、アクチノール乳剤による防除を徹底する。
- ハーモニー75DF水和剤のカズノコグサへの使用時期は「麦1葉期～節間伸長前まで」なので、使用の際は麦の生育状況に注意する。
カズノコグサは、スズメノテッポウに形態が似ており、防除は播種直後処理剤と「ハーモニー75DF水和剤」(カズノコグサが1～3葉期までに)との体系処理で行う。

<カズノコグサとスズメノテッポウの識別法>

- ・「根の色」で簡単に識別できる。
『カズノコグサ』の根は、『スズメノテッポウ』に比べるとやや「白色」。

	種子の形	根の色
カズノコグサ	ハート型 	白色
スズメノテッポウ	粒 	赤褐色



★除草剤散布後は、以下のことに注意する★

- ①「**麦踏み**」は、除草剤散布後に薬剤の影響で葉が黄色くなっている場合、麦へのダメージが大きいので、散布後1週間は控える。同様の理由で、麦踏直後の除草剤の散布も控える。
- ②「**土入れ**」を、除草剤散布後すぐ行くと、雑草の蒸散作用が抑制され有効成分の根吸収が妨げられるので散布後1週間は土入れを控える。(特にステージの進んだ雑草の場合は十分に間隔をあける)

○播種後除草剤が散布できていない圃場や、雑草の発生がみられる圃場では、除草剤の処理時期を逸さないように早めに茎葉処理剤を施用する。

農薬名	効果のある雑草	使用量	希釈水量	使用時期	総使用回数	使用上の注意事項
ハーモニー75DF水和剤	イネ科雑草 ・スズメノテッポウ ・カズノコグサ 広葉雑草 ・ヤムグサ ・アザミ ・ハハ	5~10g/10a (カズノコグサには10g/10a 土壌処理剤との体系処理で使用)	100L/10a	播種後~節間伸長前 ※カズノコグサに対しては、 麦1葉期~節間伸長期	1回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・播種後にハーモニー細粒剤Fを散布された圃場では使用できません。 ・薬害が生じやすいので周辺作物への飛散に注意。 ・使用器具の洗浄を入念にし、他作物との併用はしない。 ・スズメノテッポウ、カズノコグサには効果が弱い(抑制するが枯死しない)
アクチノール乳剤	広葉雑草 ・ヤムグサ ・カズノコグサ ※イネ科雑草には効果がない	100~200ml/10a	70~100L/10a	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	2回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・広葉雑草多発田に使用し、ヤムグサ、カズノコグサに効果が高い。 ・湿度に左右されず使用できる。 ・散布後、20日程度で枯死。 ・接触剤なので、必ず雑草の茎葉に散布する。 ・<u>気温が高い日の散布は薬害が生じるので注意が必要。</u>

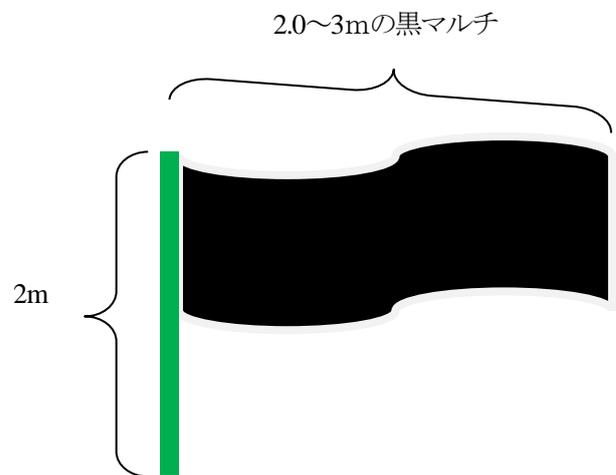
5) 鳥獣害対策（カモによる食害）

- 近年、11月播種された麦（用水路や川の横の圃場など）において、カモによる食害が見られる。
- カモによる食害は、麦の地際部まで草刈機ではらったようになる。
- カモ害の対策としては、「のぼり」や、「テグス」などの方法が効果的であると言われている。
- 効果的な『のぼり』の設置方法は、2mの支柱に、2.0～3.0mの黒色のマルチをつるした「のぼり」を、10aあたり5本均等に設置する方法である。



【カモによる食害】

※「のぼり」は、マルチの長さや支柱の高さが短かったり、10aあたりの「のぼり」の本数が少なすぎると効果が低減する。（費用は、「のぼり」1本あたり約450円）



6) 酸性土壌による障害

酸性障害については、[麦作情報 No.1](#) を参照。
（[西松浦農業改良普及センターHP](#) にも掲載しています。）

R2年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値 (伊万里)

西松浦農業改良普及センター

